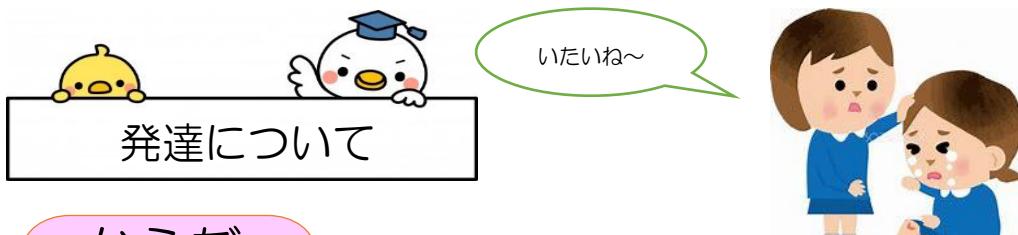


絵本選びのポイント 4歳児



日常会話が豊かになり、話し言葉が完成期を迎える4歳児



からだ

協応動作が確かなものに。

3歳児のときに得た「〇〇しながら〇〇をする」という協応動作が全身運動でも手指の操作でも自由にできるようになります。動作が確立してくると、達成感が生まれ、心の発達へつながります。

ことば

話し言葉の完成期。想像力が豊かに。

自分の言葉で、自分なりに思いを伝えるようになります。また伝わらないもどかしさを感じるのもこの頃。想像力が育ち、目に見えない世界や架空の世界への憧れが生まれ始めます。

社会性

人とのつながりが豊かになり、心の中のありさまに関心が高まる。

大人のまねをして背伸びをしたり、友達と自分との違いがわかるようになると、他人の存在を認識することで人との関わりが豊かになります。そして、心の中のありさまに関心がたかまっていきます。



絵本選びのポイント



◇音を楽しむ言葉遊びが出てくる絵本

◇現実から離れた世界に出会える、ファンタジー絵本、昔話、

冒険物語、ナンセンス絵本

現実から離れた物語の世界を楽しみながら、イメージの世界がどんどん膨らんでいくような絵本がおすすめです。

江南市立図書館スタッフが選んだ 4歳児のおすすめ絵本



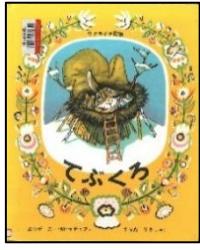
『がんばれ! パトカー』
竹下文子/作 鈴木まもる/絵
偕成社 (Eカ)

パトカーが、まちのパトロールに出かけました。そこに大事件が発生! 宝石強盗の車を追って、迫力のカーチェイス。がんばれ、パトカー! 細かく描かれたまちの様子や、たくさんの乗り物が魅力的な絵本。



『コアラアラアラやってきて』
おおなり修司/文 丸山誠司/絵
絵本館 (Eコ)

コアラアラアラやってきた。木から落ちそうな子どもコアラを受け止めて、コアラホラホラ大丈夫。そして、バクがバクバクやってきて…。さて次は、どんな動物がやってくるのでしょうか? リズミカルでとても愉快なユーモア絵本。



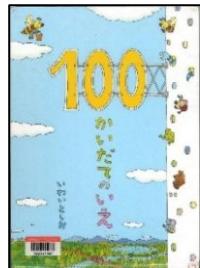
『てぶくろ』
エウゲーニー・M・ラチョフ/文
うちだりさこ/やく
福音館書店 (Eテ)

雪の降り積もる森で、おじいさんがてぶくろを片方落としました。すると、ねずみ、かえる、うさぎたちが、てぶくろの中に次々ともぐりこみ…。



『109ひきのどうぶつかくれんば』
のはなはるか/作・絵
堀川晃菜/監修
ひさかたチャイルド (Eヒ)

今日は、どうぶつかくれんば大会。109ひきのどうぶつたちが、7つの色のエリアにわかれでかくれます。最後まで見つからないのはだれでしょう?



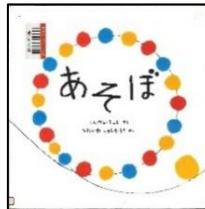
『100かいだてのいえ』
いわいとしお/作
偕成社 (Eヒ)

100階建てのてっぺんに住む誰から、「遊びに来てね」と手紙をもらったトチくん。でも 100階までたどりつけるかな? 他にも「100かいだてのいえ」シリーズの絵本があります。



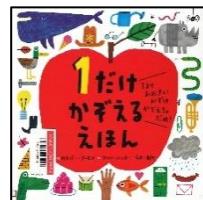
『よるのようちえん』
谷川俊太郎/文 中辻悦子/文・しゅしん
福音館書店 (Eヨ)

夜の幼稚園にはだれもいません。みんなうちへ帰りました。どこからか、夢の子どもが現れて、夜の幼稚園で遊びはじめます。そとさん、すとさん、ぬとさん、ぱとさん、ぼとさん…。さてみんなで何人いるでしょう?



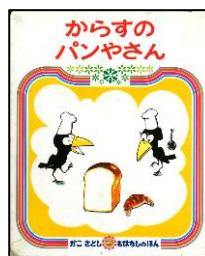
『あそぼ』
エルヴェ・テュレ/文
たにかわしゅんたろう/やく
ボプラ社 (Eア)

『1だけかぞえるえほん』
カスパー・サーモン/作
マット・ハント/絵 今井悟朗/訳
フレーベル館 (Eイ)



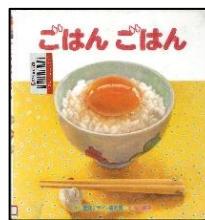
『いろいろはっぱ』
小寺卓矢/写真・文
佐藤孝夫/監修
アリス館 (Eイ)

『えがないえほん』
B.J.ノヴァク/文
おおともたけし/やく
早川書房 (Eエ)

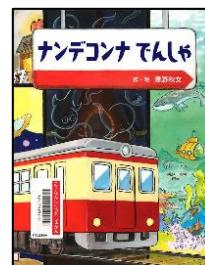


『からすのパンやさん』
加古里子/文
偕成社 (Eカ)

『この本はよまれるのがきらい』
ダビット・サンデン/作
青山南/訳
すばる舎 (Eコ)



『ごはんごはん』
視覚デザイン研究所/文
内山悠子/文
視覚デザイン研究所 (Eコ)



『ナンデコンナでんしゃ』
澤野秋文/文・絵
ひさかたチャイルド (Eナ)

『よかったねネッドくん』
レミー・シャーリップ/文
やぎたよしこ/文
偕成社 (Eヨ)



『わすれられないおくりもの』
スーザン・バーレイ/文
小川仁央/文
評論社 (Eワ)



『わたしのちいさないきものえん』
大島加奈子/文
福音館書店 (Eワ)

